

179. 身体各部のリンパ腺シンチグラフィー

京都大学 第一内科

三木 昌宏 剱米 重夫 脇坂 行一

我々は、身体各部のリンパ腺のシンチグラムを、^{99m}Tc 硫黄コロイド及びクエン酸⁶⁷Ga により撮影し、各リンパ節群の形態、コロイド摂取による喰食機能、⁹⁷Ga 摂取による悪性度の判定等を対象として悪性リンパ腫を中心に、検討したので報告する。

＜^{99m}Tc 硫黄コロイド法＞ 頸部リンパ節群に対しては、両耳後部皮下に、0.5mCi ずつを。腋窩部～鎖骨上窩リンパ節群には、両手背部皮下に 1 mCi ずつを、後腹膜リンパ節群には、両足背部皮下に、1.5～3 mCi ずつを注射し、2～4 時間後に、シンチカメラにて撮影した。

頸部リンパ節群の描出は、注射部位の放射活性が強いため、鮮明な像を得ることが少なかった。腋窩部～鎖骨上窩リンパ節群は、まず腋窩部が、続いて鎖骨上窩群へと各リンパ節群が描出され、上下に、各側頸部や縦隔部へと流出して行くが、通常は、この部位は造影不良であるが、症例によっては、喰食能の亢進のためか、側頸部、縦隔部リンパ節群が描出されることがある。後腹膜リンパ節群では、鼠径部～腸骨部～大動脈周囲リンパ節群へと続いて描出され、通常のリンパ管造影と良く一致する。病的状態では、巨大化、造影不良、欠損、左右非対称、などがあり、症例によっては、更に上行して肺門部、鎖骨上窩リンパ節群が描出されることがある。

＜クエン酸⁶⁷Ga 法＞ ⁶⁷Ga-citrate 1～2 mCi を静注48～72時間後に撮影、正常では、各リンパ節は造影されないが、悪性リンパ腫の浸潤のあるリンパ節群が描出される。このため通常の造影法で描出されぬ、肺門部～縦隔、腸間膜等のリンパ節群の検索に有効である。

両検査法を組合せ、更に形態にすぐれたリンパ管造影法を加えれば、各部のリンパ節の病態を、よりくわしく知り得ることが出来ると考える。